

9. 迷える愛…フアン・ルイス 『良き愛の書』

Juan Ruiz, *Libro de Buen Amor* (1330)

Madrid から北東に延びる国道 2 号線を行くと、小一時間で Guadalajara に到着する。そこから国道を外して少し北に行くと小山の麓に Hita という村がある(【写真 1】)。留学中の夏期休暇に「イタの中世フェスティバル」(Festival Medieval de Hita)が開催されることを知り、友人を誘ってドライブをした。ここはスペイン文学史の授業で扱われた『良き愛の書』(Libro de Buen Amor) の著者 Juan Ruiz が聖職に ついていた土地なのでどうしても見ておきたかった。



【写真 1】 Hita

一般にスペインの石造建築物の保存状態はよく、文学にゆかりのある土地の往時の姿を今でも容易に想像することができる。また郊外の景観を壊して興ざめにさせる広告がないのもありがたい。中世フェスティバルという催しはさらにその雰囲気醸し出してくれ。イワシの鉄板焼きをほおぼりながら、独特の衣装をつけて村中を練り歩く人たちを見ていると、私たちも一緒について行きたくなる気分になった(【写真 2】)。

●作者の謎

Libro de Buen Amor は 4 行の連が 1700 以上も続く大著であり、中世特有の教化文学の代表作である。Juan Ruiz が庶民を相手に恋愛について説教する。扱われるテーマは聖母とキリストへの賛歌から世俗の恋愛術にまでわたり、品行方正であるべき司祭の立場にもかかわらず、作者の奔放な女性遍歴の物語としても読める。多分に文学的創作であると思われるが 14 世紀の庶民の生活を垣間見るようで興味深い。

ところで Juan Ruiz は唯一この作品しか残しておらず、また歴史上にもほとんど記録が残っていないため、その背景がよくわからない。実は Juan Ruiz という名前であ

ったのかどうか定かではない。確かに次に見る 19 連に "yo, Juan Ruiz" と記されているが、それはごく平凡な名前なので作者の遊び心からの偽名であるという可能性もある。

姓名が平凡ならば何かの特徴を示すべきであるが、この作品ではそれが Arcipreste de Hita「イタの首席司祭」ということになる。はたして Hita は現在の Hita 村で、彼がその司祭だったのであろうか。あるいはこれも作者の勝手な詐称なのだろうか。これも謎に包まれたままである。

また、arcipreste「首席司祭」という名称から村の規模も相当なものだろうと想像していたが、フェスティバルの行列の後について一巡りしてみたところ、とても小さな村であることがわかった。イタリアのスペイン中



世文学研究者 Margherita Morreale (1990) 【写真 2】Festival Medieval de Hita の調査によれば Hita にはユダヤ人の居住者も多く、当時かなり重要な土地であったというが…。

●線過去

次は作者の敬虔な信仰心を表す聖母マリア賛歌の一部である(González Ollé, 1980)。

(2)

19	Porque de todo bien es comienzo e raíz la Virgen Santa María, por ende yo, Juan Ruiz açipreste de Fita, d'ella primero fiz' cantar de los sus gozos siete, que ansí diz'
----	---

【語句】por ende = por eso それゆえ açipreste > arcipreste 主席司祭 fiz > hice 私は作った ansí > así このように。

【訳】(19) 聖母マリア様はすべての善の根源であられるので、イタの首席司祭である私フアン・ルイスは、はじめに彼女について次の七つの歎びの歌を作りました。

(3)

<i>Gozos de Santa María</i>	
20	O María, luz del día Tú me guía todavía
21	Gáname graça e bendición, e de Jhesú consolaçión, que pueda con devoçión cantar de tu alegría.

【語句】**guía** guiar の命令形 **todavía** (s.XIII-XIV) = siempre 常に。

【訳】聖母マリアの歎び 20 ああ、陽光のようなマリア様、常に私を導きたまえ。21 あなたの喜びを敬虔な心で歌えますよう、私に恵みと祝福とイエスの慰みを与えたまえ。

(4)

22	El primer gozo que s' lea: en çibdad de Galilea Nazaret creo que sea, oviste mensajería
23	del ángel que a ti vino, Grabíel santo e dino, tróxote mensax' divino, díxote: "Ave María".

【語句】's **lea** > se lía leerse「読まれる」の線過去 3 人称単数¹ **çibdad** > ciudad 町
creo que sea² > creo que era …であったと思う **oviste** = tuviste あなたは持った
mensajería > mensaje お告げ, 知らせ **Grabiel** > Gabriel ガブリエル **dino** (s.
XII-XIV) > digno 立派な **tróxote** > te trajo あなたにもたらした **mensax'** >
mensaje お告げ **díxote** > te dijo あなたに言った。

【訳】(22) 書に記された最初の歓びは、ガリレアの町、たしかナザレという所で、あ
なたが知らせを受けられたことです。(23) あなたの許にやってきた立派な天使聖
ガブリエルが伝えた知らせです。天使はこう言いました / 「アベ、マリア」。

現代スペイン語では **ar** 動詞は **aba** という語尾が特徴であり、**er** 動詞と **ir** 動
詞は **ía** という語尾が特徴である。**aba** と **ía** は同じ機能を担うにも関わらず形
が似ていないが、実は **ía** はかつての **iba** という語尾の **b** が消失したものであ
り、消失の前は **ba** という部分が全部の動詞に共通していた。

現代スペイン語の線過去の不規則形は **ser** の **era**, **ir** の **iba**, **ver** の **veía** の 3 つだけ
である。**era** はラテン語の不規則形を継承しているが、中世には上の(22)に見
られるように、**sea** (または **seía**) という規則形も存在した。**ir** の線過去 **iba** とい
う「不規則形」は先に見たような古い規則形(**iba**)の名残りである。そしては
ver が元は **veer** (<Lat. **videre**) であったことからすれば、**veía** も歴史的に見れば
規則形ということになる。同様な例が(22)の **lea** である。これは **leer** の接続法で
はなく線過去の **leía** の別形である。このように **se(e)r** と **ve(e)r** と **leer** は本来同じ
線過去形であったが、**ser** はラテン語の線過去形を継承し、**ver** は不定詞が短縮
し、**leer** だけが他の規則変化形に足並みを揃えた³。

●作品の謎

この作品の面白さは聖職者ともあろう人が世俗の恋愛術を歌っていることにある。
たとえば次は老司祭が若い女性に言い寄る場面である。

¹ ここの **lea** は接続法ではなく 4 行目の **sea** と同様に線過去形と考えたい。**leía** で
はなく **lea** となったのは **Galilea** との脚韻のためであろう。

² **seer** (> Mod. **ser**) の接続法ではなく、線過去 **seía** の別形であろう。27 連には **seía**
がある。

³ なお、(22)で、**seía**, **leía** ではなく **sea**, **lea** となっているのは AAAB 型の韻律
(ea, ea, ea, ía) に合わせたものと考えられる。

Aquí dize de cómo fué fablar con Doña Endrina el Arçipreste.

653 Ay, Dios! Quán hermosa viene Doña Endrina por la plaça!

Qué talle, qué donaire, qué alto cuello de garça!

Qué cabellos, qué boquilla, qué color, qué buenandança!

Con saetas de amor fiere quando los sus ojos alça.

654 Pero tal lugar non era para fablar en amores:

a mí luego me venieron muchos miedos e tenblores,

los mis pies e las mis manos non eran de sí señores,

perdí seso, perdí fuerça, mudáronse mis colores.

【語句】**hermosa** (s.XII-XIV) > hermosa 美しい **buenandança** = buena manera de andar 美しい歩き方 **fiere**, **ferir** (s.XII-XVIII) > hiere, herir 傷つける。

【訳】(653) ああ神よ、広場を通してこちらに来るエンドリナさんのなんと美しいことか。/ なんとという体つき, なんとという優雅さ, その首は鷺(さぎ)のようになんとほっそりとしていることか! なんとという髪, 小さな口, 肌の色, 歩き方の美しいこと! / 彼女が視線を向ければ愛の矢で人を傷つける。(654) しかしこんな場所は愛を語らうにはふさわしくない。/ たちまち私はとても恐くなり震えはじめた。/ 私は自分の足も手も自由にならない / 私は分別を失い, 力がぬけて顔色も悪くなった。

このようにして始まる **Endrina** との恋の話はとても長くなるが, 要約すると最初のアタックに失敗した司祭が男女の仲を取り持つ老婆の助けを借りて思いを遂げるという話である。神への愛(**amor a Dios**)こそが書名の「良き愛」(**buen amor**)であり, 世俗の愛などは「迷える愛」(**loco amor**)にすぎないということを説くのが作者の意図であったはずなのに, 逆に迷える愛の説明の方が断然多く, 生き生きとした描写が随所で精彩を放っている。また, たとえば恋を語るには人目につく場所を避けなければいけない, 相手の気を引くには嘘も方便, 金の力に頼るべし, などのアドバイスがしっかりと定型詩で歌われているので現代の読者でも思わず笑ってしまう。

聖母マリア賛歌と恋の手練手管を同書に並べた作者の真意は不明だが, 中世の峻厳な道德律の支配を逃れつつある 14 世紀に書かれた作品の舞台には退廃的な都市生活に広がる社会の現実が反映されているようにも思える。

■ 課題テキスト

全編4行1728連から成る。書名『良き愛の書』(Libro de Buan Amor) は次の第13連にもとづいて後に R. Menéndez Pidal がつけたものである。

(1)

13	Tú, Señor e Dios mío, que al ome formeste, Enforma e ayuda a mí, tu açipreste, Que pueda fazer <i>Libro de Buen Amor</i> aqueste, Que los cuerpos alegre e a las almas preste.
----	---

【語句】**Enforma**, enformar > informar = instruir 教える **preste**, prestar = ayudar, favorecer 救う。

次の (2) ~ (9) は聖母マリアへの讃歌であり, (10) ~ (18) は老司祭が若い女性に話しかける場面を描いている。

(2) ~ (4) [前掲]

(5)

24	Tú, desde el mandado oíste, omilmente lo resçebiste, luego virgen conçebiste al fijo que Dios en ti envía
25	En Belem acaeçió el segundo quando nasció e sin dolor apareçió de ti, Virgen, el Mexía.

【語句】**desde** (s.XIII-XV) = después de que …した後で **mandado** (s.XII-XIV) = mensaje お告げ **omilmente** (s.XIV-XV) > humildemente 慎ましく **resçebiste** > recibiste あなたは受け取った **luego** (s. XII-XV) = prontamente すぐに **Mexía** > Mesías 救世主。

(6)

- | | |
|----|---|
| 26 | El terçero cuentan las Leys
quando venieron los reys
e adoraron al que veys
en tu braço, do yazía. |
| 27 | Ofreçió 'l mirra Gaspar
Melchior fue ençienso dar,
oro ofreçió Baltasar
al que Dios e ome seía. |

【語句】**Leys** = Biblia 聖書 **veys**⁴ > veías あなたが見ていた **do** (s.XII-) > donde ...
…の場所に **Ofreçió 'l** > le ofreció 彼に捧げた **fue ençienso dar** > fue a dar
encienso 香を献上しに行った **ome** (s.XIII-XVII) > hombre 人 **seía** = era, ser の
線過去 3 人称単数。

(7)

- | | |
|----|--|
| 28 | Alegría quarta e buena
fue quando la ⁵ Madalena
te dixo, gozo sin pena,
que el tu fijo ⁶ vevía. |
| 29 | El quinto plazer oviste
quando al tu fijo viste
sobir al çielo e diste
graçias a Dios o sobía. |

【語句】**Madalena** > Magdalena マグダレナ **vevía** > vivía 生きていた **oviste** =
tuviste あなたは持った **sobir** > subir 昇る **o** (s.XII-XIV) = en donde…の場所へ。

⁴ **veer** の線過去は **veies** であったが、脚韻をそろえるため **veys** とされた。

⁵ 固有名詞の前に定冠詞をつけるのは現代語では俗語的な用法である。

⁶ 定冠詞＋所有形容詞に注意。cf. 29b.

(8)

30	Madre, el tu gozo sesto, quando en los discípulos presto fue Spíritu Santo puesto en tu santa conpañía
31	Del seteno, Madre santa, la Iglesia toda canta: sobiste con gloria tanta al çielo e quanta ý avía.

【語句】**presto** (s.XIII-) = pronto すぐに **seteno** (s.XIV-) = séptimo 第七の。ý (s.XII-XV) = allí あそこに.

(9)

32	Reinas con tu fijo quisto, nuestro Señor Jhesú Cristo: por ti sēa de nos visto en la Gloria sin fallía.
----	--

【語句】**quisto** (s.XIV-XVIII) > querido 愛された **fallía** (s.XIV-XV) = falta 間違い。

(10)

[前掲]

(11)

655	Unas palabras tenía pensadas por le dezir, el miedo de las conpañas me façían ál departir: apenas me conosçía nin sabía por dó ir, con mi voluntat mis dichos non se podían seguir.
656	Fablar con muger en plaça es cosa muy descobierta:

a bezes mal perro atado (es) tras mala puerta abierta
 bueno es jugar fermoso, echar alguna cobierta;
 ado es lugar seguro, es bien fablar cosa çierta.

【語句】**por le dezir** > para decirle **ál** (s.XII-XVII) = otra cosa 別のこと **departir** (s.XII-)⁷ = hablar 話す **dó** (s.XII-)⁸ > dónde どこへ **cobierta** (s.XIV-) = simulación 別のふり **ado** (s.XIV-XVII) > a donde, donde ...…の場所で。

(12)

657 "Señora⁹, la mi sobrina, que en Toledo seía,
 se vos encomienda mucho, mill saludes vos enbía;
 si ovies' lugar e tienpo, por quanto de vos oía,
 deséavos mucho ver e conosçervos querría.
 658 Querían allá mis parientes casarme en esta saçón
 con una donçella rica, fija de Don Pepiön¹⁰;
 a todos di por respuesta que la non quería, non:
 de aquella sería mi cuerpo que tiene mi coraçón."

【語句】**seía** (ser の線過去 3 人称単数) = estaba ...にいた **encomendarse a ...** ...を頼りにする **parientes** (s.XIII-XIV) = padres 両親。

(13)

659 Abaxé más la palabra, dixe'l que en juego fablava
 porque toda aquella gente de la plaça nos mirava;
 desdeque vi que eran idos¹¹, que ome áy non fincava,
 començél dezir mi quexa del amor que me afincava

⁷ 現代語では **departir** は格式語である。El Ministro de Defensa alemán **deartió** cordialmente con su colega estadounidense por espacio de una hora. ドイツの国防大臣は米国の国防大臣と1時間に渡ってなごやかに会談した。

⁸ **do** は今日では古語として詩などで用いられる。

⁹ 女性に対する敬称。現代語の未婚の女性への敬称 **señorita** は 18 世紀から使われるようになった。

¹⁰ **pepiön** は当時の少額貨幣の名。

【語句】**Abaxé** > bajé 声を低くする **áy** > ahí そこに **fincaba** = quedaba 残っていた **quexa** (s.XIII-) > queja 苦しみ **afincaba**, **afincar** (s.XII-) = apremiar 苦しめる **desque** = después de queした後で

(14)

664 Señora, yo non me atrevo a dezirvos más razones,
 fasta que me respondades a estos pocos sermones:
 dezitme vuestro talante, veremos los coraçones."
 Ella dixo: "Vuestros dichos non los preçio dos piñones.
 665 Bien así engañan muchos a otras muchas Endrinas,
 el ome tan engañoso así engaña a sus vezinas;
 non cuidedes que só loca por oír vuestras parlinas,
 buscat a quien engañedes con vuestras falsas espinas."

【語句】**sermón** = habla, palabras 話, 言葉 **talante** = voluntad, deseo 望み **cuidedes** = penséis 考えないで **só** > soy 私は...である **parlinas** = hablas, parlerías 話, おしゃべり。

(15)

666 Yo le dixé: "Ya, sañuda, anden fermosos trebejos;
 son los dedos en las manos¹², pero non todos parejos:
 todos los omes non somos de unos fechos non co(n)sejos;
 la peña tien' blanco e prieto, pero todos son conejos.
 667 A las vegadas lastan justos por pecadores,
 a muchos enpeesçen los ajenos errores,
 faz' mal culpa de malo a buenos e a mejores:
 deven tener la pena a los sus fazedores.

¹¹ 自動詞の完了形の助動詞は **ser** が使われていた。また、過去分詞は主語の性数に一致する。

¹² **las manos** > **Mod. la mano**. 現代語ならばそれぞれに配分されたものは単数で表

【語句】**Ya** (s.XII-XV) = Oh! おや, まあ! **trebejos** (s.XIII-) = juguete おもちゃ
consejos = parecer 意見 **peña** = piel para forro 裏地の皮 **vegadas** > veces 度
lastan (s.XIV-XV) = padecer 苦しむ **enpeesçen** (s.XIV) > empecer 妨げる。

(16)

- | | |
|-----|---|
| 668 | El yerro que otro fizo, a mí non faga mal;
avet por bien que vos fable allí so aquel portal,
non vos vean aquí todos lo(s) que andan por la cal;
aquí vos fablé uno, allí, vos hablaré ál." |
| 669 | Paso a paso Doña Endrina so el portal es entrada ¹³ ,
bien loçana e orgullosa, bien mansa e sosegada,
los ojos baxó por tierra, en el poyo asentada;
yo torné en la mi fabla que tenía començada. |

【語句】**cal** (s.XIII-XV) > calle 通り **fablé** > hablé 私は話した **ál** > otra cosa 別の
 こと **tornar** (s.XII-XV) = regresar, volver 戻る。

(17)

- | | |
|-----|--|
| 670 | "Escúcheme, señora, la vuestra cortesía
un poquillo, que vos diga la muerte mía:
cuidades que vos fablo en engaño e en folía,
e non sé qué me faga ¹⁴ contra vuestra porfía. |
| 671 | A Dios juro, señora, para aquesta tierra,
que quanto vos é dicho de la verdat non yerra;
estades enfríada más que la nief de la sierra,
e sodes atán moça que esto me atierra. |

す。

¹³ 自動詞の現在完了。

¹⁴ 現代語の間接疑問文では No sé qué me hago ...となる。

【語句】**folía** (s.XII-XV) = locura, desvarío 馬鹿げたこと, 狂気 **en folía** = en broma
冗談で **para ...** > **por ...** ...にかけて(誓う) **nief** > **nieve** 雪 **sodes** > **sois** あなたは
…だ **atierra**¹⁵ (s.XIII-XV) = abatir, derribar 落胆させる, がっかりさせる。

(18)

672	Fablo en aventura con vuestra moçedad, cuidades que vos fablo lisonja e vanidad non me puedo entender en ¹⁶ vuestra chica edad; querríedes jugar la pella ¹⁷ , más que estar en poridad.
-----	---

【語句】**en aventura** = al alzar あてずっぽうに, むやみに **cuidades** = peinsáis あ
なたは考える **pella** > **pelota** 鞠(まり) **poridad** > **puridad** = secreto 秘密。

【課題 9a】現代スペイン語の線過去形が他の時制とくらべて規則的である歴史的
理由を考えなさい。

【課題 9b】現代スペイン語の **ver** の線過去形が **veía**+人称語尾となり, 不規則動詞
に分類される理由を共時的に, また歴史的に説明しなさい。

【課題 9c】スペイン語の動詞活用を「語根+活用語尾」(**cantá-bamos**)と分けて説
明する方法と, 「語根+法・時制語尾+人称語尾」(**cantá-ba-mos**)と分けて説明す
る方法を比較しなさい。

【課題 9d】次の Valbuena Prat (1974)の説明を肯定する観点から, または批判する
観点から Juan Ruiz のテキストを読み気づいたことを書きなさい。

"Como las obras de Boccaccio y de Chaucer, el *Libro de buen amor* pertenece a
un momento de crisis de los ideales de la antigua Edad Media." (p.154) "El

¹⁵ 現代語の **aterrar** は語根母音変化をしない。> Mod. **aterra**.

¹⁶ **entenderse en** > Mod. **entenderse con**.

¹⁷ **jugar la pella** > Mod. **jugar a la pelota**.

Arcipreste vive en la época de pleno choque entre la corriente ascética de la Edad Media anterior y el triunfo de la vida que culminará en el gran Renacimiento". (p.159) "En todo el libro aparece la doble posición ascética y sensual, que produce un conjunto tan representativo de la época." (p.160).

【参考文献】

- González Ollé, F. 1980. *Lengua y literatura españolas medievales*. Barcelona. Ariel.
- Morreale, Margarita. 1990. "El Libro del Arcipreste de Hita", en J.F. Arcina Rovira et al. (eds.) *Historia de la literatura española, I*, Catedra.
- Valbuena Prat, Ángel. 1974. *Historia de la literatura española*, octava ed. Barcelona. Editorial Gustavo Gili.

FIN